

SAMPLE

特集レポート No. 001

建設業界におけるロボット活用の現状と可能性

Strictly Confidential

 Info Mart Corporation

2017年 6月28日

はじめに

- 建設市場では、建設投資額が回復傾向にある一方、就業者数は長期的には減少傾向にあり、10年後には大量の人材が引退することが予測される中、建設現場における人手不足がいつそう深刻化するのには確実である
- 人手不足への対策は、処遇の改善などによる人材の獲得・定着を目的としたものと、生産性の向上を目的としたものに分かれ、建設現場におけるロボット活用は生産性向上のための施策として注目を集めている
- 本レポートでは、建設現場におけるロボット活用の事例を紹介することで、現状のロボット活用状況を明らかにし、今後の建設現場におけるロボット活用の可能性について考察する

本資料の流れ



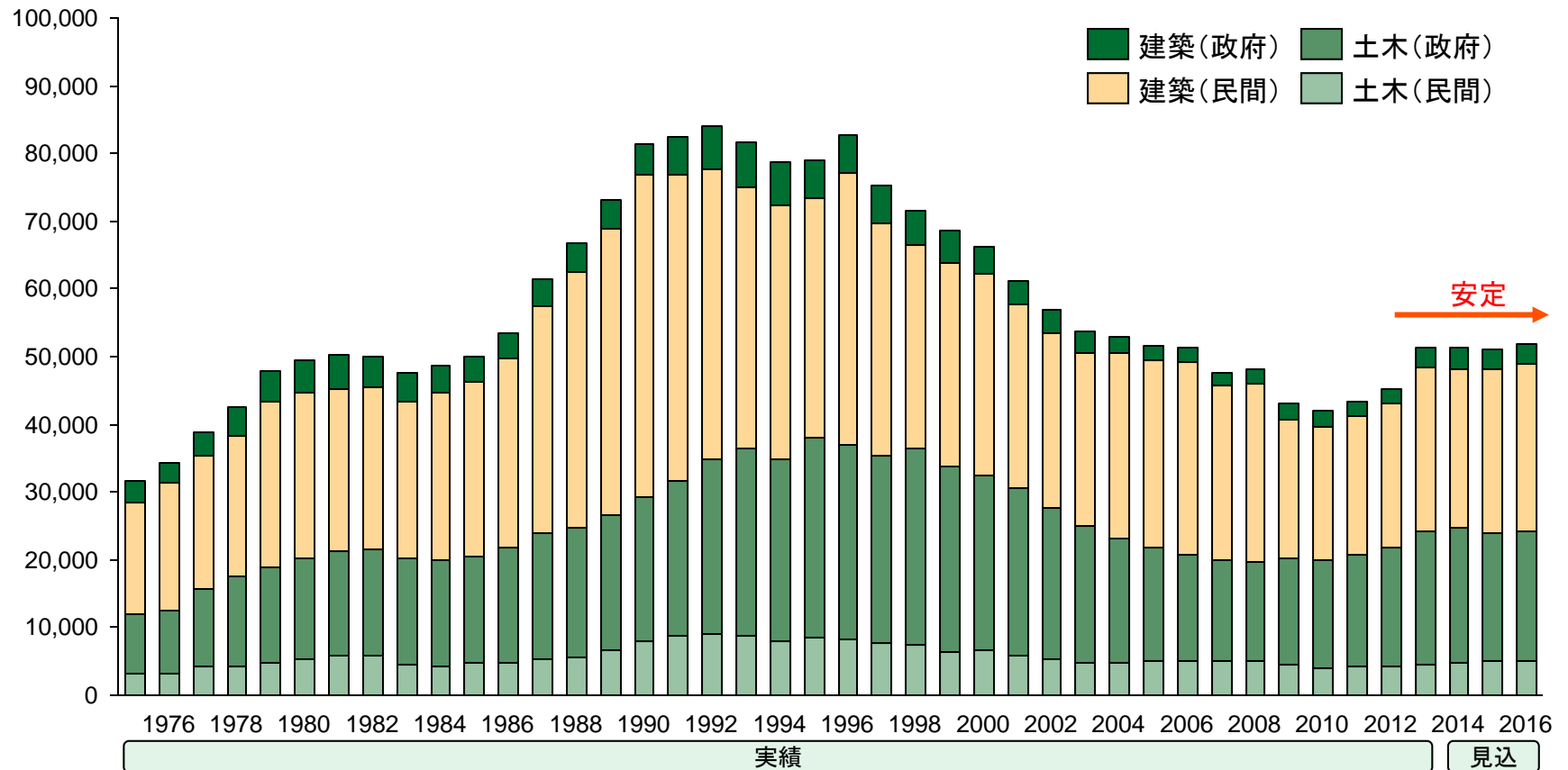
- I. 建設業界の動向
- II. 建設現場のロボット活用事例
- III. 今後の可能性

建設業界の投資額

- 国内の建設投資額は1992年をピークに長期的には減少傾向にあるが、近年は、震災復興需要や東京オリンピックに向けた建設投資により安定した推移となっている

建設投資額の推移

(単位: 十億円)



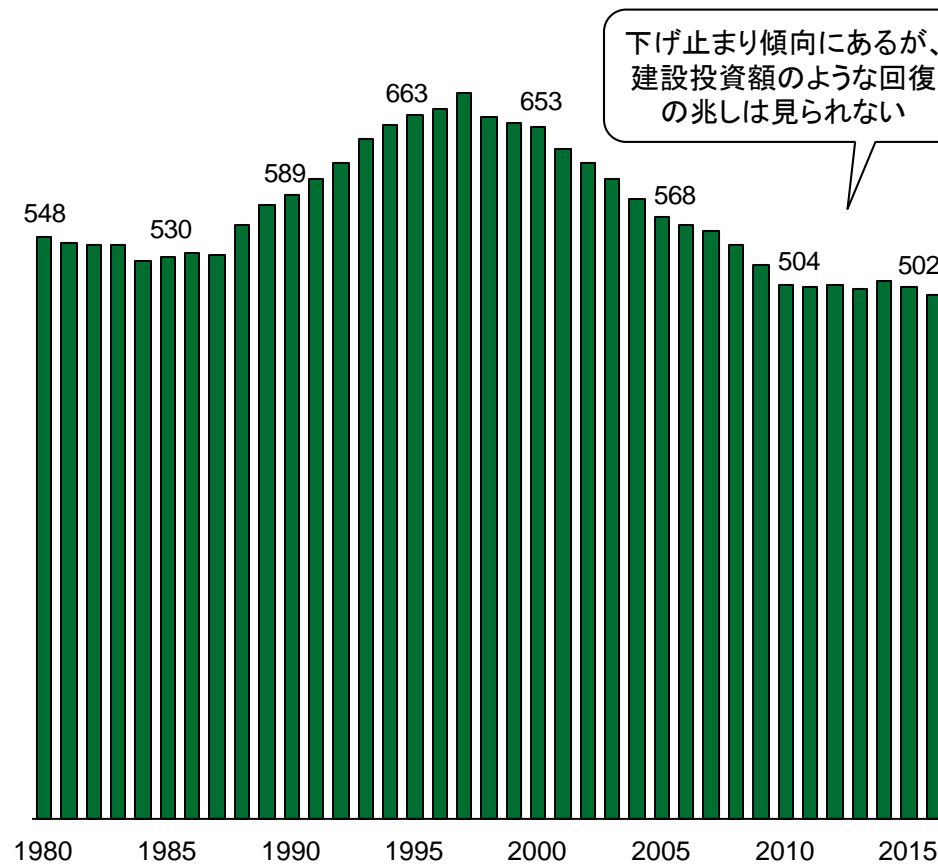
出所: 国土交通省「平成28年度建設投資見通し」

建設業界の就業者

- 建設業界の就業者数は下げ止まり傾向にあるが、建設投資額のような回復の兆しは見られない
- 10年後には多くの就業者が引退することが予測され、人手不足の深刻化が懸念される

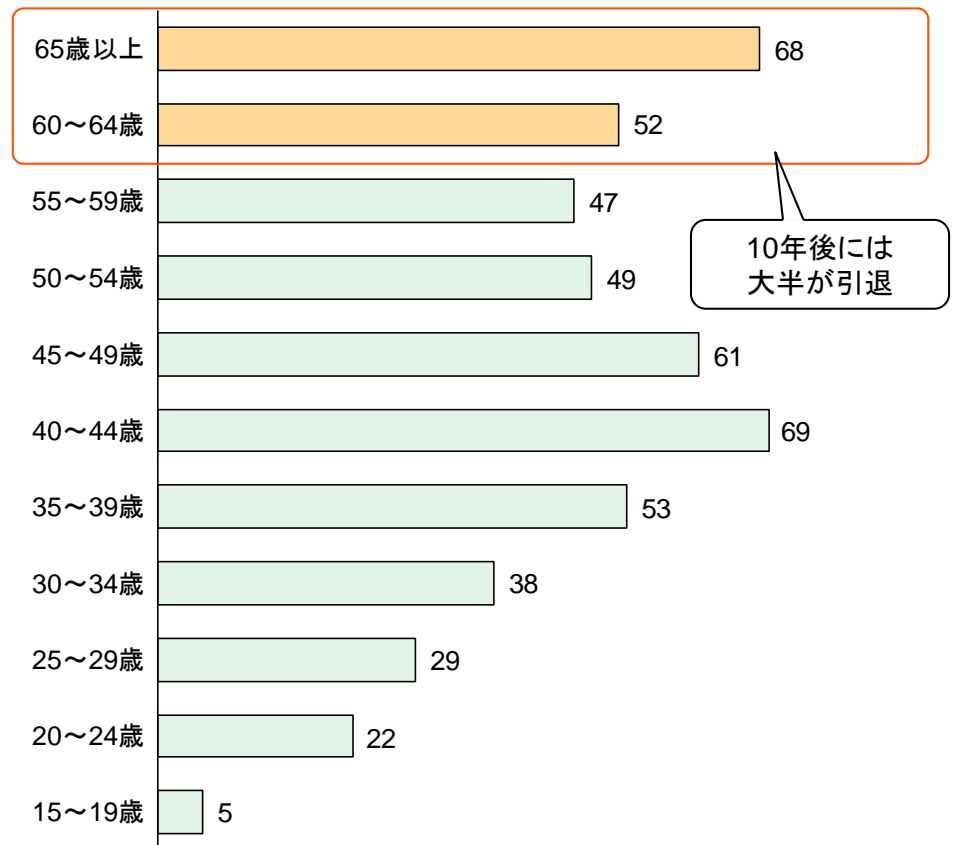
建設業界の就業者数の推移

(単位: 万人)



建設業界の年齢別就業者数

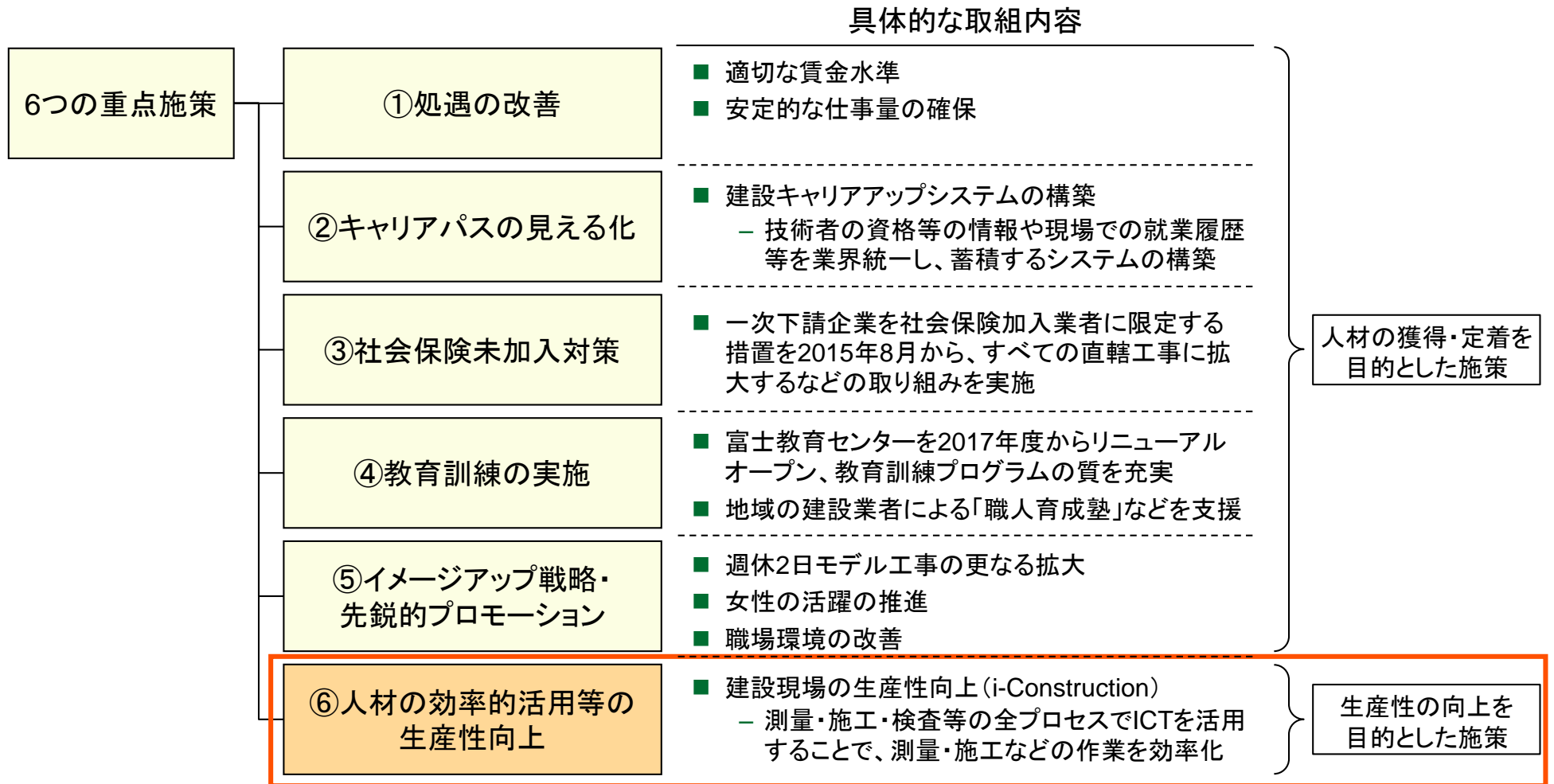
(単位: 万人)



出所: 国土交通省「労働力調査」

人手不足に対する対応方針

- 人手不足に対する対応方針としては、人材の獲得・定着を目的とした施策が中心である
- 本レポートでは、生産性の向上を目的としたi-Constructionの中でもロボットを活用した取り組みに注目



SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

